

“大学のデジタル変革 第2回：学習者本位の教育技術”

1. 開催の趣旨：

近年、コロナ感染症対策に見られる学生生活の大幅な制限やこれに伴う遠隔授業の急速な拡大など、大学の置かれた環境は大きく変化しております。

本ワークショップシリーズではこれまでに、有効な教育の質保証システムを構築する際の各構成要素のあるべき姿について、講演とワークショップを通して学んで来ました。教育目標に設定された知識・能力を設定された水準以上で学生に身に付けさせるには、その達成度評価とともに教育内容・手法を含めて質の保証・向上を図るといふもので、大学教育のデジタル化の加速にも対応してきました。

日本工学教育協会では上記動向を捉え委員会活動を実施して、結果を書籍「大学のデジタル変革 -DXによる教育の未来-」（編著者：井上雅裕、東京電機大学出版局）としてとりまとめて出版しました。

今回の研修では、書籍内容を題材として大学のデジタル変革を俯瞰し、教育のモデルの変化と今後の動向を理解する3回シリーズの第2回目として、「学習者本位のデジタル技術の本質を理解し、学習や教務におけるデジタル技術の具体的な適用方法」について学びます。第3回目は、「大学のモデルの変革、特にリカレント教育の最新動向を共有後に、ワークショップにより大学でデジタル変革を進める方法」について学ぶ予定としております。3回シリーズとしておりますが、それぞれが独立した内容となっていることから興味のある回に参加することも、シリーズを通して参加することも可能です。

大学教育を取り巻く環境は大きく変化しております。大学のデジタル変革の動向を理解したうえで、学習者本位の観点から大学が創意工夫に基づく教育研究活動を行い、最低限保証すべき質を担保しつつも先導性・先進性のある質保証システムとしていく必要があります。

今回は、“学習者本位の教育のためのデジタル技術”をテーマとして、「学習者のためのデジタル技術の在り方」「電子出版による教育の価値創造」「ラーニングアナリティクス（LA）とLAを支援する情報システム」「学習歴デジタル化と教務管理システムとの接続の動向」「Cyber空間とPhysical空間の融合による新しい教育」に関する講演をハイブリッドにて開催いたします。本研修では、「大学のデジタル化の取組や全体理解に悩みをもつ教職員や企業の人材開発部門の方」を対象に、学習者本位の教育に対する質保証を実現するためのデジタル技術とその応用について考える機会を提供していきます。

これまでの講演やワークショップなどを受講していない方にも役立てていただける内容ですので、多数のご参加をお待ちしております。なお、大学のデジタル変革シリーズ第3回を6月頃に開催予定です。

2. 開催日時：2023年3月6日（月）13:00～17:20

3. 会場：ハイブリッド開催（会場およびオンライン）

会場：芝浦工業大学豊洲キャンパス301教室（〒135-8548 東京都江東区豊洲3丁目7-5）

URL：<https://www.shibaura-it.ac.jp/access/toyosu.html>

4. プログラム：別紙

5. 主催：一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）、公益社団法人日本工学教育協会、芝浦工業大学理工学共同利用拠点（共催）

6. 後援：文部科学省、経済産業省（予定）

7. 募集人員：会場40名（先着順受付）＋オンライン（100名）

8. 申込方法：下記サイトよりお申し込みください。参加受付後に事務局より参加詳細をお送りします。

<https://forms.gle/YgvSWhVJHo6t2Lx66>

9. 申込期限：2023年2月24日正午（金）（期限厳守）

10. 参加費：15,000円（税込み）（資料は当日配付します。なお、書籍は含みません。）

ただし、下記のいずれかに該当する方は12,500円とします。

・ JABEE 認定継続中のプログラムからの出席者またはJABEE 正会員である学協会^(注)の個人正会員

（注）<http://www.jabec.org/outline/member/> の社員名簿にある学協会

・ 日工教の個人正会員または日工教認定の教育士（工学・技術）資格保有者

なお、「大学のデジタル変革」シリーズワークショップ第1回目からご紹介しております教材書籍『大学のデジタル変革－DXによる教育の未来－』（編著者：井上雅裕、東京電機大学出版局 定価3,410円）を購入希望の参加者に、1冊2,700円（税込み）（別途送料300円）にて郵送販売します。上記、参加申し込みサイトよりお申込み下さい。

（郵送先は、参加者宛てのみとさせていただきます。また、複数冊の購入可能です。ただし、大量ご購入の場合は事務局へご連絡をお願いします。）

11. 支払方法：事前振込のみ（申込期限までに振り込みをお願いします。）

※振込明細書を支払証書として使用下さい。書籍希望者（冊数・送付先明記）は、参加費＋書籍代＋送料を合算して振り込み下さい。（振込手数料は各自のご負担をお願いします。）

【振込先】三井住友銀行 三田通支店 普通預金口座

口座番号：6862866

口座名義：公益社団法人日本工学教育協会 コウエキヤダノホウジン ニホノウカクキョウイクキョウカイ

12. 継続教育ポイント対象講座：教育士（工学・技術）の方には出席1ポイント/h＋参加5ポイント（全日出席の場合、合計10ポイント）が付与されます。

※ 教員の教育能力の開発と紐づけ、「大学のデジタル変革」シリーズ3回すべての学習を修了した方に、マイクロレデンシャル（デジタルバッジ形式）を発行予定です。今後、教育士（工学・技術）資格認定制度とも連携を図ってまいります。

13. 連絡先：日本工学教育協会（担当 京谷（きょうや） kyoya@jsee.or.jp Tel: 03-5442-1021）

以上

JABEE-日工教共催「国際的に通用する技術者教育ワークショップシリーズ第18回」
“大学のデジタル変革 第2回：学習者本位の教育のためのデジタル技術”プログラム

今回はハイブリッド開催と致しますので、講演と質疑の形で進めさせていただきます。

日程：2023年3月6日（月）ハイブリッド開催

12:45 受付開始

13:00 主催者挨拶
雑賀 高（日本工学教育協会 理事、工学院大学 特任教授）
（司会者） 市坪 誠（豊橋技術科学大学 教授、学長特別補佐）

13:10 「学習者本位の教育のためのデジタル技術と学習のモデル」

丸山智子（愛媛大学教育・学生支援機構 准教授）

教育におけるDX とは、データやデジタル技術を生かして、教育の変革を行なうことにある。デジタル技術の効果的な活用は、学生の主体的な学習、能動的な活動を促進する。今後求められる人材育成の学習モデルを示し、学習者本位の教育のためのDX のあり方を考える。

参加者によるグループワーク（オンライン）：グループワークツールの説明と参加者のアイスブレイク

13:40 「大学における電子教科書と電子図書館の連携」

湯浅俊彦（追手門学院大学国際教養学部 教授/図書館長）

日本における電子学術書と電子教科書開発の歴史的経緯を踏まえ、学内の電子図書館を活用した「知の循環構造」の実践事例を紹介する。そして、学生や教員が図書を「読む」「借りる」だけでなく「書く」「作る」ことへの移行に大学図書館が積極的に介在することによって、電子教科書の概念を再構築する。また、電子教科書のアクセシビリティとディスカバラビリティについても検討する。

参加者によるグループワーク（オンライン）：講演内容を振り返り整理する

14:40 「ラーニングアナリティクスと次世代学習管理システム」

角田和巳（芝浦工業大学工学部 教授）

鈴木 洋（芝浦工業大学学事本部）

オンライン授業の増加に伴い、様々な学習データが収集・蓄積されるようになった。学習分析（ラーニングアナリティクス）は、これらのデータを活用して学生の学修状況の理解と最適化を実現する手段であり、学習者本位の教育を実現するツールとして期待されている。本講演では、ラーニングアナリティクスの手法や事例、ラーニングアナリティクスを支援する学習管理システムについて紹介し、教育モデルの変革に向けた道筋を考える。

15:10 「学修歴のデジタル化と教務管理システム」

除村健俊（サイバー大学IT総合学部 教授）

鈴木 洋（芝浦工業大学学事本部）

大学受験や就職に際し、学修歴証明の提出が必要である。しかし、Diploma Millと言われる学歴詐称のためのDiploma（卒業証明書）を発行するビジネスが横行しており、巧妙に詐称学歴証明書を作成できる。このため、国際的に、紙の学歴証明書は信用されておらず、デジタル学修歴証明の必要性が非常に高い。一方、日本ではデジタル学修歴証明の普及は遅々として進んでいない。本講演では、デジタル学修歴証明の国内外の状況と、デジタル学修歴証明を発行している芝浦工業大学での経験を基に、その導入の苦勞、メリット、課題などを紹介する。

参加者によるグループワーク（オンライン）：講演内容を振り返り整理する

15:55 「Cyber-Physical連携での学習の場の拡張」

大江信宏（サイバー大学IT総合学部 教授）

対面型の教育からオンライン教育になり、臨場感、対話性の問題等に対して、xR、メタバース、シミュレーション、デジタルデータの活用などCyber-Physical連携により、解決と付加価値創出を図っている事例が増え、デメリットもあるがメリットがあることもわかってきている。いくつかの事例を紹介しながら、Cyber-Physical連携での学習の場の拡張について考える機会としたい。

参加者によるグループワーク（オンライン）：講演内容を振り返り、自学への展開や課題について議論する

16:50 全体共有・質疑

17:10 総括

17:20 終了